

(参照:商業界「11月号」P40～43)

利益とは

会社として利益を上げて会社と店を存続させることが第一ですが、会計上にはいろいろな利益が数字として表れることを把握する必要があります。(図表①)

営業利益＝売上総利益－販売費および一般管理費
 経常利益＝営業利益＋営業外利益(受取利息など)
 －営業外費用(支払利息など)

損益計算書	
①売上高	営業損益計算
②売上原価	
③ 売上総利益 (①－②)	
④販売費および一般管理費	
⑤ 営業利益 (③－④)	
⑥ 営業外収益	経常利益計算
⑦営業外費用	
⑧ 経常利益 (⑤＋⑥－⑦)	
⑨特別損失	純損益計算
⑩ 税引き前当期純利益 (⑧－⑨)	
⑪法人税、住民税および事業税	
⑫ 税引き後当期純利益 (⑩－⑪)	

図表① PL

損益分岐点(損益分岐点売上高)と経営安全率を確認しましょう

損益分岐点は、「損失」と「利益」の数値の分かれる箇所を表すものです。売上高が損失分岐点よりも上なら利益が出ますが、下なら損失になります。(図表②)

損失分岐点売上高とは、損失が生じる売上高のことを指します。基本は、「固定費」と「変動費」から損益分岐点を計算できます。1カ月の損益分岐点を計算してみましょう。

$$\text{損益分岐点} = \text{固定費} \div \{1 - (\text{変動費率} \div \text{売上高})\}$$

$$\text{損益分岐点} = \text{固定費} \div (100\% - \text{変動費率})$$

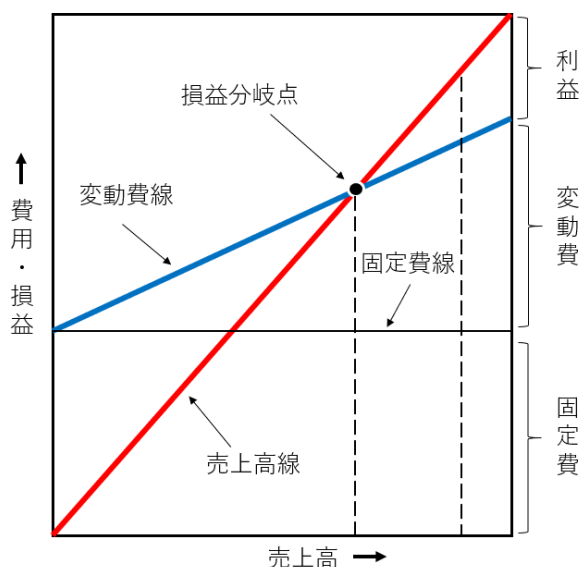
図表③を使って、損益分岐点を算出します。1カ月の売上が450万の場合

$$157.5 \text{万円} \div \{100\% - (33\% + 22\%)\} = 350 \text{万円}$$

$$157.5 \text{万円} \div \{1 - (247.5 \text{万円} \div 450 \text{万円})\} = 350 \text{万円}$$

よって、この店の損益分岐点は、350万円です。

損益分岐点を下げるために、会社として、店として、何をするか対応を考えます。固定費が高いと赤字になります。削減できるものを考えてみます。固定費を下げるか、変動費を下げるか、または販売価格を上げる方法があります。消費税増税やキャッシュレス対応の手数料等の増加が考えられますので、今年は販売価格の見直し、値上げの検討時期です。



図表② 損益分岐点

経費	固定費	変動費	固定費	変動費率
材料費		●		33%
人件費	●		99万円	
諸経費(光熱費など)		●		22%
賃料(家賃・駐車場)	●		22.5万円	
減価償却費	●		22.5万円	
支払利息	●		13.5万円	

図表③ 経費の確認